

当院における低腎機能患者の肺炎の発症及び予後の後方視的検討

1. 研究の目的と意義

肺炎は日本において死亡原因の上位に位置し、2010 年頃以降は死亡率の減少を認めたものの、現在も年間約 13 万人以上の患者さんが肺炎により亡くなっています。また、肺炎の治療経過に腎機能障害が影響を及ぼすことが言われています。しかし、腎機能障害のある患者さんが肺炎を起こした場合の影響については十分なデータは得られてはいません。当院は地域包括ケア病棟や療養病棟を有する後方病院として周辺施設や高次医療機関から腎機能障害のある患者さんや肺炎の患者さんを治療する機会は少なくありません。本研究は腎機能障害のある肺炎患者さんの診療情報を調査することで治療の経過や転機を把握することを目的とします。これにより腎機能障害を有する肺炎の患者さん及びそのご家族へより正確な情報をお伝えできる意義があると考えます。

2. 対象となる患者さん

本研究の対象は 2019 年 1 月 1 日から 2022 年 10 月 30 日の 3 年 10 ヶ月間で肺炎発症時に腎機能障害があり (eGFR 15 mL/min/1.73m² 未満)、当院に肺炎契機での入院もしくは入院中に肺炎を発症した患者です。

また、本研究では比較対照群として 2019 年 1 月 1 日から 12 月 31 日の 1 年間で肺炎発症時に腎機能が保たれており (60 ≤ eGFR < 90 mL/min/1.73m² 未満)、当院に肺炎契機での入院もしくは入院中に肺炎を発症した患者さんを設定しました。

3. 研究の方法

本研究は、腎機能障害のある肺炎患者さんの予後について対照群を設定し、後方視的検討を行います。また 1 年後の生存率や入院期間、再入院率等について調査を行います。

4. 研究に用いる試料・情報

・ 患者背景：年齢、性別、身長・体重、合併症、吸入酸素流量、透析導入の有無、自立度、認知機能、代替栄養の有無、当院初診日、入院経路、当院入院回数、入院期間、死亡日。

- ・ 自覚症状、他覚所見
- ・ 画像所見（レントゲン, CT 等）
- ・ 血液検査所見
- ・ 検尿検査所見
- ・ 併用薬 副腎皮質ステロイドの有無
- ・ 抗菌薬

- 起炎菌：痰培養, 血液培養

5. 研究期間

研究機関長の許可日～2024 年 11 月 30 日

6. 外部への試料・情報の提供

該当なし

7. 研究実施体制

この研究は千住病院のみで実施する研究です。 研究責任医師： 特定医療法人 雄博会 千住病院 呼吸器内科 千住 博明

8. お問い合わせ先

特定医療法人 雄博会 千住病院 呼吸器内科 千住 博明

住所：長崎県佐世保市宮地町 5-5 電話：0956-24-1010（総合受付）

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）
千住病院 患者相談窓口（受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日除く））
住所：長崎県佐世保市宮地町 5-5 電話：0956-24-1010